

横浜市立 今井小学校 平成28年度版 中期学校経営方針 (平成28～30年度)

学校概要

創立 136 周年	学校長 杉山 百合子	副校長 石川 まゆみ	学期 2 学期制	児童・生徒数 351 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 3		主な関係校: 橘中学校・左近山中学校		

学校教育目標

『かがやいている子』

- ◎課題解決に向けてねばり強くやりとげの子を育てます(知)
- ◎自他のよさを認めて行動する思いやりのある子を育てます(徳)
- ◎自他の生命を大切にす元気で明るい子を育てます(体)
- ◎人や自然、地域を大切に、自らできることを実践する子を育てます(公)
- ◎様々な人とのコミュニケーションを通して、視野を広げ、深く考える子(開)

学校の特徴

○明治13年に開校し、136周年を迎えた。環状2号線に至近でありながら、学校の周辺が緑で囲まれているため、大変静かな教育環境を維持できている。地元の方々は学校への協力を惜しまない。PTAは、地域・学校との連携を取り、大変協力的である。学校教育に対しても好意的・積極的で「今井小が大好きなんです。」「今井小で卒業させたいんです。」と多くの保護者に言ってもらえている。
 ○創立以来、地元と密接な関係を保っている。近年学区に分譲マンションが多く建設されたため児童数の極端な減少もなく、活気がある。鎌倉時代以降の史跡も点在するため学習に役立っている。
 ■校内重点研究を通して、職員同士学び合う姿勢が育っている。このことから子どもたちの学力向上への一層の期待がもてる。
 ■学力学習状況調査の結果から、学習に対する意欲は高いが、なかなか定着が図れていない現状が浮かび上がってきた。また、家庭学習の時間が短いことも課題としてあがっている。

学校経営中期取組目標

- ◎子どもたち全員が、『自分大好き！今井大好き！』『自分ってなかなかやるじゃん！』と思えるように、子ども一人ひとりを大切に、今井の地域に生きる子どもを育てます。
- ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、問題解決を通して子どもの表現力を引き出し・伸ばしながら学力を向上させます。
- ・子ども一人ひとりが、自分の居場所や自尊感情がもてるよう、指導・承認・賞賛・励ましをタイムリーに行い、楽しく学校生活が送れるようにします。
- ・命の尊さを実感し、健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。
- ・学校だけでは味わえない豊かな体験「地域の行事」にも意欲的に参加し、「人」とのつながりを意識し、『今井大好き！』な子どもを育てます。

小中一貫教育の取組

橘中学校 ブロック: 橘中学校 仏向小学校 初音が丘小学校 藤塚小学校 今井小学校

9年間で育てる子ども像

基礎基本の定着と確かな学力の向上を目指す小中一貫教育
 ～共に学び合い、認め合い、支え合える人間関係を育てる小中連携～ 共通取組…あいさつのできる子

自校の具体的取組

- 中学校との授業参観による交流を行い、研究協議会を行うことで連携を深める。
- 児童生徒交流日を中心に中学校との子ども同士の交流を図り、連携を密にする。
- 専任会や実務者会での話し合いをもとに、今井の子どもらしく自分の意思をもって流されない子どもを育てる。

重点取組分野

取組目標

具体的取組

<p>確かな学力</p> <p>学年やブロックで教材研究を行い、基礎基本を大切にしたり分かりやすい授業をし、授業力の向上に努める。</p> <p>担当 常置委員会A</p>	<p>○重点研究(生活科・社会科)や少人数指導(算数)等の授業研究を通して、個々の教師の授業力の向上を図り、わかりやすい授業を行う。</p> <p>○重点研の研究主題を「学習に主体的に取り組む子の育成」とし、社会科や生活科に焦点を当てて。事象に対して自分とのつながりやかわりかかわりを考えながら関心を持ち、自ら主体的に調べ考える子どもを目指す。</p>
<p>豊かな心</p> <p>自主的に考え、責任をもって行動する態度を養い、地域行事などへの参加を通して思いやりの心や社会に役立ち行動する姿勢を育成する。</p> <p>担当 常置委員会C</p>	<p>○毎月1回のたてわり活動の中で、学級集団だけでなく異年齢同士のつながりを築く。また、すべての学年が「たてわり遊び」を企画することで、高学年は低学年を支え、低学年は高学年を頼って活動する姿を育成する。</p> <p>○「どうぞよろしくの会」や「ふれあい給食」を行い、図書ボランティア、学援隊をはじめ地域の方々を知り、かわかることで人とのつながりを大切に、感謝の気持ちをもって挨拶をする子どもを育成する。</p>
<p>健やかな体</p> <p>基本的な生活習慣に関する活動を全校で取り組む。また、一校一実践運動を継続的に取り組みながら体力向上を目指す。</p> <p>担当 体育部・保健部</p>	<p>○「歯磨きタイム」を給食後、5分間設定し、全校で継続的に取り組み、正しい歯磨きの習慣を身につける。</p> <p>○一校一実践運動では体育委員会主催の「なわとびタイム」「ランニングタイム」や集会委員会主催の「大縄キング」など休み時間を使って1年間の中で計画的に、継続的に取り組んでいく。</p> <p>○栄養教諭と連携しながら、全学級で食育に関する指導を行う。</p>
<p>児童生徒指導</p> <p>クラスの子ではなく今井の子というスタンスで全職員が共通の指導を行う。また、子どもがどの職員にも相談できるような関係づくりに努め、いじめや問題行動の早期発見を目指す。</p> <p>担当 常置委員会C</p>	<p>○基本的な生活習慣の定着を図り、あいさつ運動を代表委員会等で取り上げ、子どもたちの活動として継続的に取り組む。</p> <p>○子どもたちとの信頼関係を日々の関わりの中で築きながら、ルールを守ることを指導し、規範意識の育成を図る。</p> <p>○月1回、職員会議内に児童の様子を共有する場を設け、全職員共通の理解で指導を進める。</p>
<p>安全管理</p> <p>計画的に避難訓練等を実施し、事件事故や災害時に教職員と児童が適切な対応、行動ができるように努める。</p> <p>担当 常置委員会B</p>	<p>○安全管理に関する研修を継続的にを行い、また不審者対応訓練や地震火事等の避難訓練を通して、事件・事故や災害発生時に教職員と子どもたちがともに適切な対応ができるようにする。</p> <p>○交通安全教室で各関係機関と連携して、正しい自転車の乗り方、正しい歩行の仕方を身につけるとともに、スクールゾーン対策協議会が出た危険箇所や事故が多い場所等は、保護者児童に周知し、安全に安心して生活できるように努める。</p>
<p>特別支援</p> <p>交流を通して、一般級と個別級の連携を深めていく。また、合理的配慮に対する職員の理解を進めていきます。</p> <p>担当 常置委員会C</p>	<p>○子ども理解や特性理解を深めるために、校内研修を効果的に行う。また、子どもの変化や状態に応じて、随時学年研やブロック研をもち、指導の工夫したり、他機関と連携をとったりしていく。</p> <p>○個別支援級の児童が少ない学年でも、給食交流を行うことで個別支援級への理解を深める。</p> <p>○教室環境・学校環境の整備を全職員が意識して行い、教室や学校に落ち着いた雰囲気を作り出す。</p>
<p>地域連携</p> <p>家庭・地域・関係諸機関との交流・連携を密にし、今井の地域に生きる子どもを育てます。</p> <p>担当 常置委員会B</p>	<p>○生活科や社会科、総合的な学習の時間などの学習では、今井のまちや自然、地域の方々に触れ、今井の地域のよさに気付き大切に子どもを育てる。</p> <p>○子どもたちが、図書ボランティア、学援隊をはじめ地域の方々を知り、連携を密にすることで、感謝の気持ちをもって挨拶をする子どもを育成する。</p> <p>○地域懇談会では、橘中ブロックの教職員、保護者との交流、連携し、地域で育つ子どもたちの目指す姿を共有していく。</p>
<p>人材育成・組織運営</p> <p>教職員の専門性が向上するとともに、メンターチームが主体的に指導改善を推進する研修や初任者研修を計画的に行っていきます。</p> <p>担当 教務</p>	<p>○全教職員が、学校運営上の諸問題を共有・共通理解し、協働体制の下、課題解決を図るチーム作りを行い、日常的に管理職・主幹教諭が指導・助言を行います。</p> <p>○職員研修を年に複数回実施するとともに、若手教員のためのサポート体制を充実させ、月1回のメンターチーム研修や年間31回の初任者研修を実施します。</p>